

ぶんかざいまるちなび

No.47

# 文化財 知ナビ

このニュースレターは、「文化財に親しむ機会の提供に関する事業」の一つとして、身近な文化財情報をはじめ、文化財を活用した事業などの紹介を行っています。  
ぜひ学校教育や生涯学習の場で広くご活用ください。

## 文化財を<sup>まも</sup>っていきましょう！

「文化財」とは、長い歴史の中で生まれ、育まれ、今日まで<sup>まも</sup>り伝えられてきた貴重な財産の<sup>こと</sup>です。

わたしたちは、かけがえのないこの財産を、自分たちの世代において活用するだけでなく、<sup>しやうらい</sup>将来の世代に伝えていかなければなりません。

そこで、地震等で大切な文化財が被害に遭わないように、耐震対策（地震に備える補強等）をしたり、火事等で建物等の文化財が被害を受けないよう、消火栓等の防火設備を設置したり、災害が起ることを予想して、避難計画を立てたり避難訓練をしています。



国は毎年1月26日を「文化財防火デー」に定め、文化財を火災、震災その他の災害から守るとともに、全国各地で文化財防災運動を行い、文化財愛護への関心を高めるようにしています

それでも文化財が時間とともに劣化したり、破損してしまうことがあります。

そこで行うのが文化財の保存修理です。

文化財の保存修理をするときは、文化財の価値を損なうことのないように気をつける必要があります。

そのために、保存修理する文化財に使われている技法や材料、劣化や破損状態をよく調べてから、保存修理の方法を決めていきます。

また、次回の保存修理の時に参考<sup>さんこう</sup>にできるように保存修理の内容<sup>ないよう</sup>を記録<sup>きろく</sup>し、将来の世代に引き継ぐことも大切です。

# 保存修理の例

## 《美術工芸品》

礼文町の船泊遺跡（縄文時代後期前葉から中葉（約 3,800～3,500 年前）から出土した重要文化財「北海道船泊遺跡出土品」は、表面の剥落、ひび割れ等の劣化や接着剤で接合した部分の破損が見られるようになったため、保存処理をしています。

修理前と修理後にはそれぞれ対象資料を写真撮影し、現状・修理状況等を記録します。



接合面を確認しながら、石こうや接着剤による接合・復元部分を解体し、クリーニングします。

必要に応じて弱い部分について補強処理を行ってから、接合・復元します。

アクリル顔料を使用し、復元部分の外面は実物と同様の彩色をします。

## 《有形文化財（建造物）》

北海道を代表する明治洋風建築の一つである重要文化財「旧函館区公会堂」（函館市）は、約 40 年ぶりに建物の保存修理を行っています。

右の写真は、2階のバルコニー柱です。

柱の内部に水分がたまって木の部分が傷んでしまいました。

建物の修理では、こうした建物の傷んだ部分を取り替えて直していきます。

旧函館区公会堂では、保存修理にあわせて耐震補強も行っています。



左の写真は重要文化財「遺愛学院（旧遺愛女学校）本館」（函館市）で行っている保存修理の様子です。

昭和 10 年の改修で増築された壁が取り払われ、当時の姿が見えてきています。

今回の保存修理では、建物が建設された明治 40 年の姿に復元するとともに耐震補強も行います。